

日本医科大学(前期) 数学

2025年 2月 1日実施

[I]

1 から 6 の目をもつ 1 つのさいころがある。 i を虚数単位とすると、複素数平面上の点 z が $z_0 = 1$ から出発して、さいころを 1 回投げると、次の規則に従って動く。

(規則) 「4 以下の目が出たら現在の点に対応する複素数に $\sqrt{2}i$ を掛け、5 または 6 の目が出たら $1+i$ で割る。このようにして得られる複素数に対応する点を新たな点 z とする。」

n を 1 以上の整数とし、さいころを n 回投げたとき、4 以下の目が k ($k = 0, 1, 2, \dots, n$) 回出る確率を $P_{n, k}$ とし、この場合の点 z に対応する複素数を $z_{n, k}$ と表すとき、以下の空欄に適する 1 以上の整数を求めよ。

(1) 確率 $P_{n, k}$ は二項係数 ${}_n C_k$ を用いて

$$P_{n, k} = {}_n C_k \frac{\boxed{\text{ア}}^k}{\boxed{\text{イ}}^n}$$

と表せる。また複素数 $z_{n, k}$ は

$$z_{n, k} = \boxed{\text{ウ}} \frac{\boxed{\text{エ}}^{k-n}}{\boxed{\text{オ}}^{k-n}} \left\{ \cos \left(\frac{\boxed{\text{カ}}^{k-n}}{\boxed{\text{キ}}} \pi \right) + i \sin \left(\frac{\boxed{\text{カ}}^{k-n}}{\boxed{\text{キ}}} \pi \right) \right\}$$

となる。

(2) 確率 $P_{2025, k}$ は $k = \boxed{\text{ク}}$ のとき、最大値をとる。

(3) 複素数 $z_{2025, k}$ が純虚数となる k は $\boxed{\text{ケ}}$ 個ある。

解答

問 1 $P_{n, k}$ は、さいころを n 回投げて、1~4 の目がちょうど k 回出る確率であるから

$$P_{n, k} = {}_n C_k \left(\frac{4}{6} \right)^k \left(\frac{2}{6} \right)^{n-k} = {}_n C_k \frac{2^k}{3^n}$$

また、 $z_{n, k}$ はこのときの点 z に対応する複素数なので

$$\begin{aligned} z_{n, k} &= z_0 \times \frac{(\sqrt{2}i)^k}{(1+i)^{n-k}} \\ &= 1 \cdot \frac{\{\sqrt{2}(\cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2})\}^k}{\{\sqrt{2}(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4})\}^{n-k}} \\ &= 2^{\frac{2k-n}{2}} \left\{ \cos \left(\frac{3k-n}{4} \pi \right) + i \sin \left(\frac{3k-n}{4} \pi \right) \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{P_{n, k+1}}{P_{n, k}} &= \frac{{}_n C_{k+1} \cdot 2^{k+1}}{3^n} \times \frac{3^n}{{}_n C_k \cdot 2^k} \\ \text{問 2 } 0 \leq k \leq n-1 \text{ のとき} &= \frac{n!}{(k+1)! \{n-(k-1)\}!} \cdot \frac{k!(n-k)!}{n!} \cdot 2 \\ &= \frac{2(n-k)}{k+1} \end{aligned}$$

であるから, $n = 2025$ のとき

$$\frac{P_{2025, k+1}}{P_{2025, k}} > 1 \iff \frac{2(2025-k)}{k+1} > 1 \iff k < \frac{4049}{3} (= 1349. \dots)$$

すなわち, $0 \leq k \leq 1349$ である。

したがって,

$$\begin{cases} 0 \leq k \leq 1349 \text{ のとき } \frac{P_{2025, k+1}}{P_{2025, k}} > 1 & \therefore P_{2025, k} < P_{2025, k+1} \\ 1350 \leq k \leq 2024 \text{ のとき } \frac{P_{2025, k+1}}{P_{2025, k}} < 1 & \therefore P_{2025, k} > P_{2025, k+1} \end{cases}$$

であるから,

$$P_{2025, 0} < P_{2025, 1} < \dots < P_{2025, 1349} < P_{2025, 1350} > P_{2025, 1351} > \dots > P_{2025, 2024} > P_{2025, 2025}$$

とわかるので,

$P_{2025, k}$ は $k = 1350$ のとき, 最大値をとる。

$$\text{問 3 } z_{n, k} = 2^{\frac{2k-n}{2}} \left\{ \cos \left(\frac{3k-n}{4} \pi \right) + i \sin \left(\frac{3k-n}{4} \pi \right) \right\} \text{ が純虚数となるのは}$$

$$\frac{3k-n}{4} \pi = \frac{\pi}{2} + m\pi \quad (m \text{ は整数})$$

$$3k-n = 4m+2$$

のときである。

$n = 2025$ のとき

$$3k - 2025 = 4m + 2$$

$$3k - 4m = 2027$$

$$3(k + 2027) - 4(m + 2027) = 0$$

$$3(k + 2027) = 4(m + 2027)$$

3 と 4 は互いに素であるから,

$$k = 4l - 2027, m = 3l - 2027 \quad (l \text{ は整数})$$

である。

$0 \leq k \leq 2025$ を満たすのは

$$0 \leq 4l - 2027 \leq 2025$$

$$\frac{2027}{4} \leq l \leq \frac{4052}{4}$$

のときであり, l は整数だから

$$507 \leq l \leq 1013$$

のときとわかる。これを満たす整数 l は 507 個ある。

したがって, 求める k の個数は **507 個** ある。

[II]

O を原点とする座標空間において、四面体 OABC は $OA = OB = AB = 1$, $AC = 2$, $OC = BC = \sqrt{3}$ を満たす。 $0 < x < 1$ を満たす実数 x に対し、線分 OA を $x : (1 - x)$ に内分する点を D とする。点 O から平面 ABC に垂線 OH を下ろす。また、三角形 ABC の内心を I とし、三角形 DHI の面積を S とする。 $\vec{a} = \vec{OA}$, $\vec{b} = \vec{OB}$, $\vec{c} = \vec{OC}$ とおくとき、以下の各問いに答えよ。

問 1 空欄に適する数を求めよ。答えのみでよい。

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \boxed{\text{ア}}, \vec{b} \cdot \vec{c} = \boxed{\text{イ}}, \vec{c} \cdot \vec{a} = \boxed{\text{ウ}}$$

問 2 空欄に適する数を求めよ。答えのみでよい。

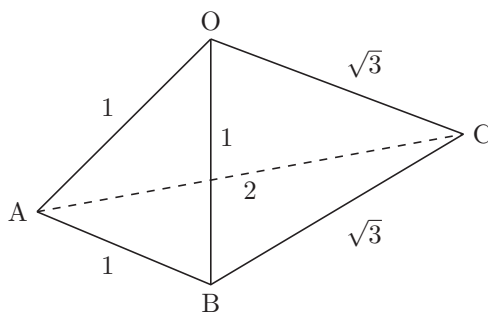
$$\vec{OH} = \boxed{\text{エ}} \vec{a} + \boxed{\text{オ}} \vec{b} + \boxed{\text{カ}} \vec{c}$$

問 3 空欄に適する数を求めよ。答えのみでよい。

$$\vec{OI} = \boxed{\text{キ}} \vec{a} + \boxed{\text{ク}} \vec{b} + \boxed{\text{ケ}} \vec{c}$$

問 4 $S = \frac{\sqrt{2}}{24}$ のとき、 x の値を求めよ。導出過程も記せ。

解答



問 1 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 1 \cdot 1 \cdot \cos 60^\circ = \frac{1}{2}$

$$|\vec{BC}|^2 = 3 \text{ から } |\vec{c} - \vec{b}|^2 = 3 \text{ であるので } 3 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + 1 = 3 \quad \therefore \vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{1}{2}$$

$$\triangle OAC \text{ において } AC^2 = OA^2 + OC^2 \text{ が成り立つから, } \angle AOC = 90^\circ \quad \therefore \vec{c} \cdot \vec{a} = 0$$

問 2 点 H は平面 ABC 上にあるから

$$\vec{OH} = s\vec{a} + t\vec{b} + (1 - s - t)\vec{c} \quad (s, t \text{ は実数})$$

とおける。

$$\vec{OH} \perp \text{平面 ABC から, } \begin{cases} \vec{OH} \perp \vec{AB} & \dots\dots ① \\ \vec{OH} \perp \vec{AC} & \dots\dots ② \end{cases}$$

①より, $\{s\vec{a} + t\vec{b} + (1 - s - t)\vec{c}\} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = 0$

$|\vec{a}| = 1$, $|\vec{b}| = 1$, $|\vec{c}| = \sqrt{3}$ と問 1 の結果から

$$\frac{1}{2}s - s + t - \frac{1}{2}t + \frac{1}{2}(1 - s - t) = 0 \quad \therefore s = \frac{1}{2} \quad \dots\dots ③$$

②より, $\{s\vec{a} + t\vec{b} + (1 - s - t)\vec{c}\} \cdot (\vec{c} - \vec{a}) = 0$

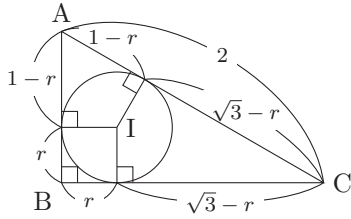
同様に

$$-s + \frac{1}{2}t - \frac{1}{2}t + 3(1 - s - t) = 0 \quad \therefore 4s + 3t = 3 \quad \dots\dots ④$$

③ ④より, $s = \frac{1}{2}, t = \frac{1}{3}$

したがって, $\vec{OH} = \frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b} + \frac{1}{6}\vec{c}$

問3 $\triangle ABC$ に着目する。



図より, 内接円の半径 r は $(1-r) + (\sqrt{3}-r) = 2$ を満たすので $r = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$

よって,

$$\begin{aligned}\vec{AI} &= \frac{1-r}{1}\vec{AB} + \frac{r}{\sqrt{3}}\vec{BC} \\ &= \frac{3-\sqrt{3}}{2}\vec{AB} + \frac{3-\sqrt{3}}{6}\vec{BC}\end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{aligned}\vec{OI} &= \vec{OA} + \vec{AI} \\ &= \vec{a} + \frac{3-\sqrt{3}}{2}(\vec{b} - \vec{a}) + \frac{3-\sqrt{3}}{6}(\vec{c} - \vec{a}) \\ &= \frac{\sqrt{3}-1}{2}\vec{a} + \frac{3-\sqrt{3}}{3}\vec{b} + \frac{3-\sqrt{3}}{6}\vec{c}\end{aligned}$$

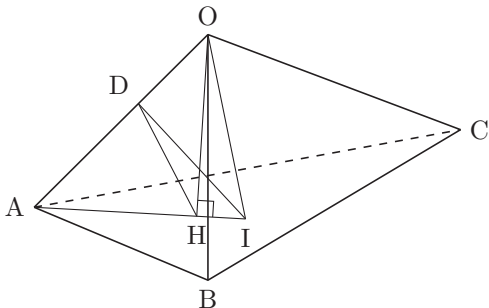
問4

$$\begin{aligned}\vec{AH} &= \vec{OH} - \vec{OA} \\ &= \frac{1}{6}(3\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) - \vec{a} \\ &= \frac{1}{6}(-3\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c})\end{aligned}$$

であり,

$$\begin{aligned}\vec{AI} &= \vec{OI} - \vec{OA} \\ &= \frac{3-\sqrt{3}}{6}(\sqrt{3}\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) - \vec{a} \\ &= \frac{3-\sqrt{3}}{6}(-3\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) \\ &= (3-\sqrt{3})\vec{AH}\end{aligned}$$

であるから, 3点 A, I, H は同一直線上にある。



したがって、点 O, A, H, D, I は同一平面上にあるので、

$$S = \triangle DHI = \triangle OHI \times (1 - x) \dots\dots(*)$$

である。

ここで、

$$\begin{aligned} |\vec{OH}|^2 &= \frac{1}{6} |3\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}|^2 \\ &= \frac{1}{6^2} (9 + 4 + 3 + 6 + 2 + 0) = \frac{2}{3} \\ |\vec{HI}| &= |\vec{AI} - \vec{AH}| = |(3 - \sqrt{3})\vec{AH} - \vec{AH}| \\ &= (2 - \sqrt{3}) |\vec{AH}| \\ &= (2 - \sqrt{3}) \left| \frac{1}{6} (-3\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) \right| \\ &= (2 - \sqrt{3}) \cdot \frac{1}{6} \sqrt{9 + 4 + 3 - 6 + 2} \\ &= \frac{2\sqrt{3} - 3}{3} \end{aligned}$$

であるから、

(*) に代入して、 $S = \frac{\sqrt{2}}{24}$ を用いると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} |\vec{HI}| \cdot |\vec{OH}| \cdot (1 - x) \\ \frac{\sqrt{2}}{24} &= \frac{1}{2} \cdot \frac{2\sqrt{3} - 3}{3} \cdot \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}} (1 - x) \\ \therefore x &= \frac{2 - \sqrt{3}}{4} \end{aligned}$$

[III]

O を原点とする座標空間内において、点 P は xy 平面内の曲線 $x = 2y^2$ 上を動き、点 Q は zx 平面内の曲線 $x = 2z^2$ 上を動くとき、 $\vec{OR} = \vec{OP} + \vec{OQ}$ によって定められる動点 R の集合を S とする。点 A(1, 3, 4) とするとき、以下の各問の空欄に適する数値あるいは数式を求めよ。問 4 については導出過程も記せ。

問 1 正の定数 k に対して、平面 $x = k$ と S の共通部分は、平面 $x = k$ 内の点 $(k, \boxed{\text{ア}}, \boxed{\text{イ}})$ を中心とし、半径 $\boxed{\text{ウ}}$ の円となる。

問 2 点 A から x 軸に下ろした垂線を AH とするとき、線分 AH の長さは $\boxed{\text{エ}}$ となる。

問 3 点 A を平面 $x = 1$ 内の点 (1, 0, 0) を中心として x 軸の周りに回転して xy 平面上に移す。このような点のうちで y 座標が正となるものを B とすると、点 B の座標は $(\boxed{\text{オ}}, \boxed{\text{カ}}, \boxed{\text{キ}})$ となる。

問 4 集合 S 上で点 X を動かすとき、 $|\vec{AX}|$ は X の座標が $(\boxed{\text{ク}}, \boxed{\text{ケ}}, \boxed{\text{コ}})$ のとき、最小値 $\boxed{\text{サ}}$ をとる。

解答

問 1 実数 t, s を用いて $\vec{OP} = \begin{pmatrix} 2t^2 \\ t \\ 0 \end{pmatrix}$, $\vec{OQ} = \begin{pmatrix} 2s^2 \\ 0 \\ s \end{pmatrix}$ と表されるため、 $\vec{OR} = \begin{pmatrix} 2t^2 + 2s^2 \\ t \\ s \end{pmatrix}$ と表される。

$x = k$ のとき、 $2t^2 + 2s^2 = k$ である。ここに $y = t, z = s$ を代入し、整理すると $y^2 + z^2 = \frac{k}{2}$ を得る。よって、平面 $x = k$ と S の共通部分は、 $(k, 0, 0)$ を中心とし、半径 $\sqrt{\frac{k}{2}}$ の円である。

問 2 H (1, 0, 0) であるため、 $AH = \sqrt{(1-1)^2 + (3-0)^2 + (4-0)^2} = 5$ 。

問 3 正の実数 u を用いて、B (1, u , 0) と表される。BH = $\sqrt{(1-1)^2 + (u-0)^2} = u$ である。また、点 A と点 B は x 軸から等距離にあるため、BH = AH = 5 を得る。こうして $u = 5$ 、つまり B (1, 5, 0) である。

問 4 S は x 軸を中心に点対称であるため、点 A の代わりに点 B を用いて最小値を計算してよい。

点 Y を S 上の点とする。B が xy 平面上にあることから、 $|\vec{BY}|$ が最小となる点 Y は xy 平面上にある。(→ 注釈)

以下 Y ($2t^2, t, 0$) とおいて議論する。

$$|\vec{BY}|^2 = (2t^2 - 1)^2 + (t - 5)^2 = 4t^4 - 3t^2 - 10t + 26$$

右辺を $f(t)$ とおく。

$$f'(t) = 16t^3 - 6t - 10 = 2(t - 1)(8t^2 + 8t + 5)$$

で、 $8t^2 + 8t + 5 = 8\left(t + \frac{1}{2}\right)^2 + 3 > 0$ に注意すると、増減表は

t	...	1	...
$f'(t)$	-	0	+
$f(t)$	↘		↗

となり、 $t = 1$ のときに $f(t)$ は最小値 17 をとる。よって、 $|\vec{BY}|$ は Y (2, 1, 0) のとき、最小値は $\sqrt{17}$ をとる。

点 A を点 B に移す回転を点 X に適用した場合、点 X は点 Y に移る。よって、点 Y に対して、点 B を点 A に移す回転を適用すればよい。これは (1, 5, 0) が (1, 3, 4) に移る回転であるため、(2, 1, 0) は $\left(2, \frac{3}{5}, \frac{4}{5}\right)$ に移る。

以上より $|\vec{AX}|$ は X $\left(2, \frac{3}{5}, \frac{4}{5}\right)$ のとき、最小値 $\sqrt{17}$ をとる。

注釈

$|\overrightarrow{BY}|$ が最小となる Y は xy 平面上にあることを計算により確かめてみよう。

問 1 より実数 s, t を用いて $Y(2s^2 + 2t^2, t, s)$ と表される。

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{BY}|^2 &= (2s^2 + 2t^2 - 1)^2 + (t - 5)^2 + s^2 \\ &= 4s^4 + \{4(2t^2 - 1)^2 + 1\}s^2 + (2t^2 - 1)^2 + (t - 5)^2 \\ &= 4 \left\{ s^2 + \frac{4(2t^2 - 1)^2 + 1}{8} \right\}^2 - \frac{\{4(2t^2 - 1)^2 + 1\}^2}{16} + (2t^2 - 1)^2 + (t - 5)^2 \end{aligned}$$

と変形できる。今、 $4(2t^2 - 1)^2 + 1 > 0$ であるため、 $s^2 = -\frac{4(2t^2 - 1)^2 + 1}{8}$ となることはないため、 $|\overrightarrow{BY}|$ が最小になる s は 0 である。

このことは B の z 成分が 0 であること（すなわち B が xy 平面上にあること）から、 s の 1 次の項が現れないことがポイントである。

[IV]

以下の各問いに答えよ。

問 1 全ての実数 x に対して定義された関数 $a(x)$ に対して、関数 $b(x)$, $c(x)$ を次で定める。

$$b(x) = \frac{1}{2}\{a(x) + a(-x)\}, \quad c(x) = \frac{1}{2}\{a(x) - a(-x)\}$$

このとき、 $b(x)$ は x の偶関数、 $c(x)$ は x の奇関数、となることをそれぞれ示せ。

問 2 全ての実数 x に対して定義された連続関数 $f(x)$ は次の条件 (i), (ii) を満たすものとする。

(i) $f(0) = 2$

(ii) $f(x+h) + \int_x^{x+h} g(t)f(t)dt = f(x)$ が全ての実数 x, h に対して成り立つ。

ただし、 $g(x) = \frac{e^x}{1+e^x} + \frac{\sin x}{3+\cos x}$ である。

このとき、以下の (1) ~ (3) の各問いに答えよ。

- (1) 関数 $f(x)$ は微分可能であることを示し、 $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ を、 $f(x)$ と $g(x)$ を用いて表せ。
- (2) (ii) で与えた関数 $g(x)$ の原始関数 $G(x)$ で $G(0) = 0$ を満たすものを求めよ。答えのみでよい。
- (3) (2) の $G(x)$ に対して関数 $h(x)$ を $h(x) = e^{G(x)}f(x)$ で定めるとき、 $h(x)$ の導関数 $h'(x)$ を計算することにより $f(x)$ を求めよ。

問 3 問 2 で求めた関数 $f(x)$ に対して、次の定積分の値を求めよ。

$$I = \int_{-\pi}^{\pi} f(x)dx$$

解答

問 1

$$\begin{aligned} b(-x) &= \frac{1}{2}\{a(-x) + a(x)\} \\ &= b(x) \\ c(-x) &= \frac{1}{2}\{a(-x) - a(x)\} \\ &= -c(x) \end{aligned}$$

となるので、 $b(x)$ は x の偶関数、 $c(x)$ は x の奇関数となる。

問 2 (1) 導関数の定義に従うと

$$\begin{aligned} &\lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h} \\ &= \lim_{x \rightarrow 0} -\frac{\int_x^{x+h} g(t)f(t)dt}{h} \quad (\because \text{条件 (ii)}) \\ &= \lim_{x \rightarrow 0} -\frac{[H(t)]_x^{x+h}}{h} \quad (\because g(t)h(t) \text{ の原始関数を } H(t) \text{ とした}) \\ &= \lim_{x \rightarrow 0} -\frac{H(x+h) - H(x)}{h} \\ &= -H'(x) = -f(x)g(x) \end{aligned}$$

よって、 $f(x)$ は微分可能であり、 $f'(x) = -f(x)g(x)$ である。

(2) 条件 (ii) より

$$\begin{aligned} G(x) &= \int g(x) dx \\ &= \int \left(\frac{e^x}{1+e^x} + \frac{\sin x}{3+\cos x} \right) dx \\ &= \int \left(\frac{(1+e^x)'}{1+e^x} - \frac{(3+\cos x)'}{3+\cos x} \right) dx \\ &= \log \left| \frac{1+e^x}{3+\cos x} \right| + C \quad (C \text{ は積分定数}) \end{aligned}$$

$G(0) = 0$ より, $C = \log 2$
よって

$$G(x) = \log \frac{2(1+e^x)}{3+\cos x}$$

(3) $h(x) = e^{G(x)} f(x)$ より

$$\begin{aligned} h'(x) &= (e^{G(x)})' f(x) + e^{G(x)} f'(x) \\ &= e^{G(x)} G'(x) f(x) + e^{G(x)} f'(x) \\ &= e^{G(x)} g(x) f(x) + e^{G(x)} f'(x) \\ &= -e^{G(x)} f'(x) + e^{G(x)} f'(x) \quad (\because (1)) \\ &= 0 \end{aligned}$$

よって, $h(x) = C'$ (C' は積分定数) であり, $h(x) = e^{G(x)} f(x)$ より

$$e^{G(x)} f(x) = C' \iff f(x) = \frac{C'}{e^{G(x)}} \left(= \frac{C''(3+\cos x)}{2(1+e^x)} \right)$$

条件 (i) より $f(0) = 2$ であるので, $C' = 2$
よって

$$f(x) = \frac{3+\cos x}{1+e^x}$$

注釈

$h(x)$ の誘導がなくても $f(x)$ の微分方程式は解ける。

(1) より, $\frac{f'(x)}{f(x)} = -g(x)$ であるので両辺積分して, $\log |f(x)| = -G(x) + C''$ (C'' は積分定数)

したがって, $f(x) = \pm e^{C''} \cdot e^{-G(x)}$ であるから, $\pm e^{C''} = C'''$ とすると, $f(x) = C''' e^{-G(x)} = \frac{C'''(3+\cos x)}{2(1+e^x)}$

あとは解答同様である。

問3 問1の利用を考えて, $f(x)$ を次のように変形する。

$$f(x) = \frac{1}{2} \{f(x) + f(-x)\} + \frac{1}{2} \{f(x) - f(-x)\}$$

したがって

$$\begin{aligned}
 I &= \int_{-\pi}^{\pi} \frac{1}{2} \{f(x) + f(-x)\} dx + \int_{-\pi}^{\pi} \frac{1}{2} \{f(x) - f(-x)\} dx \\
 &= 2 \int_0^{\pi} \frac{1}{2} \{f(x) + f(-x)\} dx + 0 \quad (\because (1)) \\
 &= \int_0^{\pi} \left\{ \frac{3 + \cos x}{1 + e^x} + \frac{3 + \cos(-x)}{1 + e^{-x}} \right\} dx \\
 &= \int_0^{\pi} \left\{ \frac{3 + \cos x}{1 + e^x} + \frac{e^x(3 + \cos x)}{1 + e^x} \right\} dx \\
 &= \int_0^{\pi} (3 + \cos x) dx \\
 &= [3x + \sin x]_0^{\pi} \\
 &= 3\pi
 \end{aligned}$$

注釈

有名な題材であり、経験があれば次のように置換して解いてもよい。

$$\begin{aligned}
 \int_{-\pi}^{\pi} \frac{3 + \cos x}{1 + e^x} dx &= \int_0^{\pi} \frac{3 + \cos x}{1 + e^x} dx + \int_{-\pi}^0 \frac{3 + \cos x}{1 + e^x} dx \\
 &= \int_0^{\pi} \frac{3 + \cos x}{1 + e^x} dx + \int_{\pi}^0 \frac{3 + \cos(-x)}{1 + e^{-x}} (-dx) \quad (\text{第2項で } x = -x \text{ と置換した}) \\
 &= \int_0^{\pi} \frac{3}{1 + e^x} dx + \int_0^{\pi} \frac{e^x(3 + \cos x)}{1 + e^x} dx \\
 &= \int_0^{\pi} \frac{(1 + e^x)(3 + \cos x)}{1 + e^x} dx = \int_0^{\pi} (3 + \cos x) dx = 3\pi
 \end{aligned}$$

講評

[I] [確率, 複素数平面] (やや易): 反復試行の確率とその増減, 複素数が純虚数となる条件に関する問題であった。定石通り解くことのできる典型問題。

[II] [空間ベクトル] (やや難): 空間ベクトルに関する問題であった。問4は4点O, A, H, Iが同一平面上にあることに気づかないと計算が面倒である。

[III] [空間座標] (標準): 空間座標からの出題であった。誘導も丁寧である。最後は色々な計算方法が考えられる。

[IV] [数Ⅲ積分法] (やや難): 関数方程式からの出題であった。誘導が丁寧であり, 計算量も本学にしては控えめである。経験があれば十分に対応できるだろう。

昨年度と比べて全体的に易化した。計算量が減り, だいぶ取り組みやすくなったのではないだろうか。一次突破ラインは65%程度か。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部進学予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校
英進館メビオ 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録またはLINE友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録 ▶



LINE登録 ▶

